<市町村探訪>
う わ さ の こ の ま ち

このコーナーでは、各地域における市町村の取り組みをご紹介します。今回は、古河市をとりあげてみました。

下校時の小学生の明るい声がこだまする通り

古河というまち

古河市は茨城県の西の端に位置し、国道４号やＪＲ東北線（宇都宮線）が通っていることから東京や埼玉県方面との結びつきが強く、どちらかというと首都圏のベットタウンとしてのイメージが強い町かもしれません。しかし、古河の歴史は意外と古く、鎌倉時代に足利成氏が古河市に入り、その居城を築いて以降の古河公方(くぼう)時代は、古河は関東の政治の主要地となりました。また、江戸時代には徳川譜代大名の古河藩の城下町として、また、日光奥州街道の宿場町として栄えた町でもあるのです。このため、今もなお、公方ゆかりの寺社や史実をしのぶにふさわしい史跡や文化財などが市内のあちこちに残っています。

ウォーキング・トレイルとは？

ウォーキング・トレイルとは、もともと欧米では自然の中の小径を指すことが多いようですが、日本では国土交通省の補助事業として、現在全国で５０箇所余りが指定され、それぞれの町の特色を活かした整備が行われています。ウォーキング・トレイルは、単なる歩道の整備とは異なり、訪れた人が安全かつ快適に、また、自然や歴史にふれあいながら、歩くことそのものを楽しむための道づくりです。

古河市のウォーキング・トレイル事業

古河市では、平成８年度からウォーキング・トレイルの事業を進めており、「まくらがの里散歩道」というキャッチフレーズのもと、城下町として歴史ある通りの雰囲気を醸し出すような道路の修景に心がけるとともに、歩行者を優先する工夫をし、安全面にも気を配った整備をしています。

ウォーキング・トレイルのコースは6.1㎞の大回りコースから小回りコースまで４コースが設定されており、体力に応じてウォーキングを楽しむことができます。コースは特に自動車の少ないルートを選んでおり、城下町のイメージである「辻」が各所にあります。こうした「辻」の路面には「雪華模様」のデザインをイメージハンプ(※)として施すなど細かいところまで工夫されているのが特徴です。

また、コースの途中には古河の歴史ある旧家や「古河歴史博物館」「鷹見泉石記念館」「篆刻美術館」「街角美術館」があり、それらに立ち寄りながら散策するのもまた楽しみの１つと言えるでしょう。

古河市のこうした努力が実り、最近では市外から来て古河の町を歩く人もずいぶん増えてきたそうです。みなさんもちょっと気ままに「古河」の町を散策してみてはいかがでしょうか。

（問い合わせ：古河市建設部　道路課
0280-22-5111（代））

鷹見泉石記念館横の叙情豊かな通り道

※イメージハンプ：車のスピードを緩めるため、ドライバーに対してスピードセーブを視覚的に促すサイン（左写真）
―雪華模様は江戸時代、藩主土井利位が、正続「雪華図説」（世界最初の雪の研究）を記したことにちなんだ―